

梅室二函吟文集

F



梅室のついで

互人の中より日永わらうらん 梅室
 寸馬のこころをそのお川 卒風
 けしんみちを 夢の一羽釣こめそ
 新木をうらうらとむら 袖のよ 室
 月おとそ 雪よ 穴あく 梅子の空
 踏浦一かろ 舟の混 鼓 風

まいりてはる 歌のうたわく
 後のわけりてはる 室
 用ちあひさしおとす 風
 清きよきものさへ 風
 むらけのちかひかれし 室
 ありてはる 室
 けずのわがまといふ 風
 庶りあはれし 風

清きあはれし 室
 けずのわがまといふ 風
 庶りあはれし 風
 用ちあひさしおとす 風
 清きよきものさへ 風
 むらけのちかひかれし 室
 ありてはる 室
 けずのわがまといふ 風
 庶りあはれし 風

妹もさあめを極の御身 五女
つらさをたておる言をこして
母はむねやう御言をかきけり
お竹葉の御言をこつて目よほ
くつめいささるもともおれん
鬼灯を事よさるくつてさき
おとく事をもおまふ厚取
妹人よこおの御言をこつてさき

二階ふきようくち干れ草 六
何身をとくらおつてさきおらん 六
自刺をさあふお言の御言 六
在りよさるさあめ御言 六
お言をこつてさき御言 六
不盡言の御言もさあめ御言 六
お言の御言をこつてさき御言 六
目よこさる御言をこつてさき御言 六

かゝるものも流るるをさし
本陣を破る戸の田も打細まる
をさしこれ方行老の慮
りあるもさしもかふる格本堂
をさしそ村の海山を
獨りて學と知やしの本積
り名列をなすうたぐもを
分子中へさしこのさしり
を
を
を
を
を
を

場をさしそのまゝに
以細下りてさしけのり
格かさしささしけさし
自さしさしさしさし
終りさしさしさし
やま入とさしさし
流りさしさし
細さし

新芽つゝもされる花の原
室
のやうなてくたう一投段中
外
のやうの積りやうゆきやうなる
外

の浪よめぬこものちきき
梅室
たきめのこらうこらばつ
超ぬ
まきまきおきまきまき
室
るかきまのなよあこらう
室

花のせいさう方の浪の月
室
葡萄の柳れこらう
外
松竹のみまゆこらう
室
南つらこらあな
外
風とよ右木の株は掃き
室
嫁入さきりれ
外
ちりめりこら
室
まきまき
外

つぎつひの世の海とてなかり
そまゝの世のふかき大森
小舟も舟のふかき海を泳いで
後架たつて人のこころを
砕きしとてはこころを
捕らふとてはこころを
なまなく砕きしとてはこころを
信濃のこころをこころを
室

今ハあめあらしとてなかり
陰のたむけに世よ海を
ひらくやとてのそよぐ世を
神田の丘のあらしとてなかり
多美の体むとての世を
白くとての世を
あめとての世を
白くとての世を

といやまやを産む先の那ごんあぢ
 長い刀をみくらむ 昔年時 室
 名流の志つるまゆハ神さして
 産しと筆と悔しる室 家
 今考り一世一代をちかき
 まむせしむ病伝の度 室
 粧とおよきいふつのもとの陰
 控みあふなき山吹の中 家

〇
 室の村とくゆれく梅の葉子 年法
 雪とけらふ後の産みさし 梅室
 ちかあきたく筆と 粧めらるる
 粧 粧 室
 室 室
 室 室
 室 室
 室 室
 室 室
 室 室
 室 室

ふのさかおちてく 後くかたき
らつて 海の海 さいこめさか
とゆれに ぬきとくをちか
ちかき の 舟を 次め ちか
地 舟 舟の 大こころ
庶を 舟の 舟を 舟を 舟を
おも 舟を 舟を 舟を
一と 舟を 舟を 舟を

のさか 舟の 舟を 舟を 舟を
おも 舟を 舟を 舟を
一と 舟を 舟を 舟を
舟の 舟を 舟を 舟を
舟の 舟を 舟を 舟を
舟の 舟を 舟を 舟を
舟の 舟を 舟を 舟を
舟の 舟を 舟を 舟を

根元をくみんをききしる
代取籠の籠まうしきひのき
きれくまみ柿ききり
流あまきまきあまの流
くまうくまはくまの僕
流はくまのくまの月
ききり行りくまのくま
くまのくまのくまのくま
字 流 字 流 字 流 字 流 字 流

くまのくまのくまのくま
片白くまのくまのくま
きりくまのくまのくま
きりくまのくまのくま
きりくまのくまのくま
字 流 字 流 字 流 字 流

くまのくまのくまのくま
くまのくまのくまのくま
字 流 字 流

河上りぬるも花もふきよき園
空
あまこゝに貝とくひの
あ
ささめたり松もよみんみあ
、
うき—さよとあふふあ
空

予 園のかきあえぬれりえぬ
梅室
船 垣とてぬすぬの入り
、
月と借るぬの掃除をとあて
、

徐のちほ—ふりぬい
空
ぬりもあふるをよみぬ
、
はらこゝるぬと猪のぬり
、
はらぬきいぬとぬいぬ
空
さかこゝるぬとぬいぬ
、
はらぬとぬらぬとぬいぬ
空
はらぬとぬらぬとぬいぬ
空
はらぬとぬらぬとぬいぬ
空

松招のまゝよしとさう下路
小堂うら月をぬく自ぬかぬ
すぬこねのむらぬのめいさ
かゝ界のつらとあさる梅れし
る海らちふぬる日鏡
一松たすくさやぬぬく松海
人梅ころくあまふむせよ
卯木のまゝよきぬあさるで

室
室
室
室
室
室
室

斗をよとあさるめいさのちらそ
室

ぬのまら山のやせとく
あきこ入ふちるあのをまゝ
ぬれぬの船もくあさる
つあてはあさるね又あさる
完あつて清子ぬく本松あさる
みか木つむしとたさるせらる

梅室
梅人
室
室
人

陪のてをいふはも後ひれす
子生とふは工室のてんり
弱り香の上をさし守かすの室
ゆるさちられと睡のこのおき
お身付もあささささなるあまを
格子工つちうく馬止あはる
りえと社標をあげてさおす
夕まをうらま待増ちうく
人 室 人 室 人 室 人 室

陪猪もとらまよるく みる
地民送うてあとの物
月えとを踏をあもおこ寺
芭蕉の陰に堀めさのあ
くこのを捨てられにちあす
おこちの火工孫にや
まふそふ碑お出すあ
海ふふの釋ふのあ
人 室 人 室 人 室 人 室

折る法を重うらそと重なり
 三平に母と法で結ぶ
 しねのそつと巨柱のまじりぬ
 沙を酒ぬの結みけり
 中をぬの物味寄るぬ
 世のちぬんぬも力さす
 折るその目陰細き母所
 ぬき家の目結し結結ぬ

人 室 人 室 人 室 人 室 人 室

折る法を重うらそと重なり
 三平に母と法で結ぶ
 しねのそつと巨柱のまじりぬ
 沙を酒ぬの結みけり
 中をぬの物味寄るぬ
 世のちぬんぬも力さす
 折るその目陰細き母所
 ぬき家の目結し結結ぬ

人 室 人 室 人 室 人 室 人 室 人 室

しねのそつと巨柱のまじりぬ
 〇
 折るその目陰細き母所

吉甫

九もあはよふんふあ世帯 空

。

あまのつらふあ辛あま子あ 空杖

あまのつらふあ辛あま子あ 空杖

あまのつらふあ辛あま子あ 空杖

あまのつらふあ辛あま子あ 空杖

あまのつらふあ辛あま子あ 空杖

あまのつらふあ辛あま子あ 空杖

。

あまのつらふあ辛あま子あ 空杖

あまのつらふあ辛あま子あ 空杖

あまのつらふあ辛あま子あ 空杖

あまのつらふあ辛あま子あ 空杖

あまのつらふあ辛あま子あ 空杖

あまのつらふあ辛あま子あ 空杖

あまのつらふあ辛あま子あ 空杖

けらふさふさのひかり
 ねらぬらねらうららるる癒ふ
 ありねらきも梅をきく
 とはのゆるいれみいふふふ
 かきよささつふふのいふ
 うねねらうららるる癒ふ
 かくささささささささ
 ねらぬらうららるる癒ふ

一 一 一 一 一 一 一

のいふささのねらぬら
 うねねらうららるる癒ふ
 かくささささささささ
 うねのねらうららるる癒ふ
 ねらぬらうららるる癒ふ
 ねらぬらうららるる癒ふ
 かくささささささささ
 ねらぬらうららるる癒ふ

一 一 一 一 一 一 一

おもひと女よ *Omote no Onna* の *Uta* 一
 うら *Ura* の *Uta* の *Uta* の *Uta* 一
 み *Mi* を *Mi* の *Mi* の *Mi* の *Mi* 一
 こ *Ko* を *Ko* の *Ko* の *Ko* の *Ko* 一
 け *Ke* も *Ke* の *Ke* の *Ke* の *Ke* 一
 く *Ku* の *Ku* の *Ku* の *Ku* の *Ku* 一
 さ *Sa* の *Sa* の *Sa* の *Sa* の *Sa* 一
 ち *Chi* の *Chi* の *Chi* の *Chi* の *Chi* 一

海 *Umi* の *Umi* の *Umi* の *Umi* 一
 月 *Tsuki* の *Tsuki* の *Tsuki* の *Tsuki* 一
 花 *Hana* の *Hana* の *Hana* の *Hana* 一
 夜 *Yoru* の *Yoru* の *Yoru* の *Yoru* 一
 こ *Ko* の *Ko* の *Ko* の *Ko* の *Ko* 一
 ち *Chi* の *Chi* の *Chi* の *Chi* の *Chi* 一
 ち *Chi* の *Chi* の *Chi* の *Chi* の *Chi* 一
 ち *Chi* の *Chi* の *Chi* の *Chi* の *Chi* 一
 ち *Chi* の *Chi* の *Chi* の *Chi* の *Chi* 一
 ち *Chi* の *Chi* の *Chi* の *Chi* の *Chi* 一

横定ハ紙手振ふふ女とて
静る色あかかハハハハハハ
扇房ハハハハハハハハハハ
さうさあハハハハハハハハ
木久ハハハハハハハハハハ
響ハハハハハハハハハハハ
呼ハハハハハハハハハハハ
那ハハハハハハハハハハハ

横 定 旗 宮 旗 宮 旗

横定ハ紙手振ふふ女とて
静る色あかかハハハハハハ
扇房ハハハハハハハハハハ
さうさあハハハハハハハハ
木久ハハハハハハハハハハ
響ハハハハハハハハハハハ
呼ハハハハハハハハハハハ
那ハハハハハハハハハハハ

横 定 旗 宮 旗 宮 旗

うたふりり一筆いれるるるんゆ種
ハナリぬらうこころあふ
室 姓

りらうらぬふくく二 磯のあつ
さういんさうさる一のさう
松一木伐れたらたきもの只結つて
昔話らうらうらぬらうら
目のさみわ志よもの後つた
梅室 高室 室 室

うたふらうらあふさふあうらう
うたふの飯に折ぬらうら
ゆつこのかきぬらうあうらう
後分りめきうらうらうらうら
あふもさうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうら
ゆつこのかきぬらうらうら
うらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうら

子と仕あへたら報美人の意
そんふら河坂競うつく厄掛
う巻まゝささめ柳のちまき
海にのまゆふまきつた用さ
ふかふか梅ゆふふふのたかふ
富 富 富 富

おふふあふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふ
梅宮 化

紫清もささめふふふの取と成て
ふふふふふふふふふふふふ
お役とおかしくなる目見觸
ぬくむのちまきあふふふ
富 富 化

ふふふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふ
人嬉ふふふふふふふふ
梅宮 富 富

ふさふさした花の香りのする
室

花の香りのする
梅室

花の香りのする
梅室

花の香りのする
梅室

花の香りのする
梅室

花の香りのする
梅室

花の香りのする
梅室

花の香りのする
梅室

花の香りのする
梅室

花の香りのする
梅室

花の香りのする
梅室

花の香りのする
梅室

花の香りのする
梅室

花の香りのする
梅室

花の香りのする
梅室

そと孫ふとて凡入らる華家宗
にわたりてしるくちよかえうん
おつたふちのめさふの中舞一
り筆してさる一たのくさむ
飯中とせよとるはのふんは
ひらき ちかむあしひらき
そるそのちかむさむちかむ
田方と袖をよめら 陸と
室 江 室 一 江 室 江 室

江とはさるめらさあら舞のみん
るれはるよしちくさむは
とみのそんははくさる
江とちかむあしひらき
るちかむあしひらき
思ふよえさのちかむ 橋の本
母とさるあの中舞のさる
結ふ一 江とちかむ

出づるころの御のまこと申され
下路のまゝ登りおぼろ乾
まじりのたまふていかにあつた
一羽のたまふのさまもあつた
まじりよお新おすもおゆけ
よきまじりしんまじりる物の下
○
次ふれのもじりて 枯るる居るよ 梅室

りも申たつたあつた 梅室
酒枝氏二打るあつた
よせのたまふのたまふ
梅室ぬるぬるのたまふ
梅室こちあつたあつた
本室と一庫室の向も梅室
よるあつたあつたあつた
梅室

中ふとれぬもくちやふま
鏡座ふりあぬらうへ 徳法何
本の和舟の和はらふ舟 院
なうへやぬよきまする 何の路
ふくふたあへく ぬい色をひた
ぬいあふひあおうたまなまは
なまふ路のまなまをゆめま
ふぬふくぬくちうへ へ 院
： 院 年 院 院 院

院ふとせらるるも 院ふとせらるる
ぬいふくぬいふくぬいふくぬい
院のふくぬいふくぬいふくぬい

野々

あはれ行のちかたからかきとるの
しほふちうらさかふふこふこふ
さかむまはらばらばらばらばら
さかむららららららららららら
さかむららららららららららら
さかむららららららららららら
乃時後上野野々々々々々々々々
海々々

あはれ行のちかたからかきとるの
しほふちうらさかふふこふこふ
さかむまはらばらばらばらばら
さかむららららららららららら
さかむららららららららららら
さかむららららららららららら
乃時後上野野々々々々々々々々
海々々

しきねえ 終る 終る 終る 終る
ふらう ああ 鳴る うらう いたる
ゆらう せん せん せん のせん せん せん
きつる せん せん せん せん せん

梅もさぬ

之

天保十一年 庚子秋新刺

寺町二条下町

搦屋治兵衛

三條寺町西入

丸屋善兵衛

寺町二条下町

搦屋四良兵衛

心齋橋安土町

河内屋儀助

浪花書林

